



Contents

- 岸田文雄の地方行脚
「聞く力」で政治原点を実践する
- 岸田文雄SNS



岸田文雄SNS公式アカウント

Twitter・Facebook・Instagram・YouTube・LINE

岸田文雄公式として現在、下記のSNSやwebサービスについてアカウントを持っています。

それぞれ特性を活かし、Facebookでは活動報告や会合等での挨拶を掲載したり、Instagramでは東京での活動、また地方での活動の際に撮った写真を掲載し、LINEではテレビ出演などの告知を掲載、YouTubeでは会合等の様子や総裁選の特集、またまとめ動画などを掲載しています。

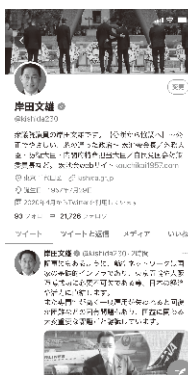
そしてTwitterでは総合的に多くの方に訴えたいメッセージを中心に投稿を行っています。

ぜひお使いのSNSがありましたらフォローしていただき、投稿がありましたらいいねなどを付けていただければ幸いです。

よろしくお願い致します。



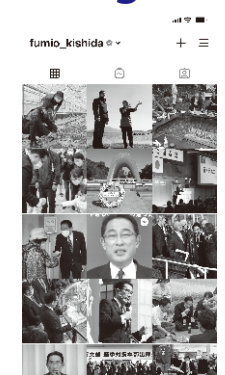
Twitter



Facebook



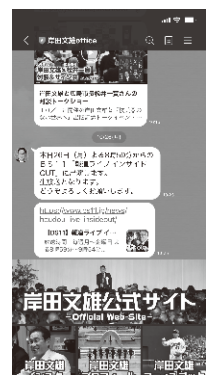
Instagram



YouTube



LINE



岸田文雄後援会事務所

●国会事務所

〒100-8982 東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館1222号室
TEL (03) 3508-7279 (直通) FAX (03) 3591-3118

●広島事務所

〒730-0013 広島市中区八丁堀6-3
和光八丁堀ビル9階
TEL (082) 228-2411 (代表) FAX (082) 223-7161

●岸田文雄ホームページ

<https://www.kishida.gr.jp/>



岸田文雄プロフィール

昭和32年生まれ。早稲田大学法学部卒業後、株式会社長期信用銀行等を経て、平成5年の衆議院議員総選挙において初当選。以後9期連続当選中。

自民党青年局長・商工部会長・経理局長、建設政務次官・文部科学副大臣、衆議院厚生労働委員長などを歴任後、平成19年の第一次安倍改造内閣において内閣府特命担当大臣(沖縄担当など)で初入閣。初代消費者行政推進担当大臣として消費者庁新設の土台を作る。

平成23～24年にかけて党国会対策委員長として国会最前線で指揮をとり、与党に対して厳しい国会追及を行い、解散に追い込む。

平成24年には保守本流の政策集団である「宏池会」の会長に就任する。

平成24年発足の第二次安倍内閣において外務大臣として入閣。以降4年8ヶ月の長期間外務大臣を務め、その間オバマ米大統領広島訪問などを実現させ、連続期間・専任期間としては戦後最長の記録を立てる。また憲政史上初の外務大臣と防衛大臣を兼務。平成29年自民党政務調査会長に就任。新型コロナウイルス対策や政調改革などに尽力する。

令和2年自民党総裁選挙に立候補する。

岸田文雄公式Twitter

@kishida230

岸田文雄の日々の活動や政策、日常の一言など、様々なつぶやきをしています。ぜひフォローをお願い致します。



岸田文雄の地方行脚

「聞く力」で政治の原点を実践する

「今日の戦いが終わった今、新たなスタートだと思っています。ぜひ今日から総理総裁を目指して次の歩みを進めて行きたいと存じます」

令和2年9月14日、自民党総裁選投票開票が終わった結果が出た直後、岸田文雄は集まった議員や関係者が集まる前で、力強く「次」を明言した。

自民党党則により、総裁が任期途中で辞任した場合、次の総裁は前の総裁の任期を引き継ぐことになっており、安倍総裁は任期を約1年残して辞任したため、菅新総裁の任期は1年ということとなる。

決して遠くない次に向け、岸田文雄はいち早く一歩を踏み出した。



自民党総裁選開後

総裁選後から12月6日までにおいて、岸田文雄は地方訪問を17回（広島を除く）行い、またこの先も地方訪問の予定が続いている。

これまでの訪問先を列挙すると「北海道・宮城県・秋田県・山形県・千葉県・富山県・福井県・山梨県・京都府・大阪府・兵庫県・福岡県・佐賀県・長崎県・沖縄県」（重複箇所は省略）となる。

まさに北は北海道から南は沖縄まで、日本を縦断して岸田文雄は駆け出したのだ。

これまで岸田文雄

は、外務大臣や防衛大臣、そして自民党政務調査会長と、様々な要職に就いており、地方出張する際にも多くはその役職における出張という形だった。

例えば外務大臣の時には「地方から世界へ」というタイトルでの外務省の公式行事として、政調会長の時には「地方政調会」というタイトルで自民党政調会の公式行事として、それぞれ地方出張を行っていた。しかし現在の岸田文雄にはそれ

らの肩書きがない。

つまり役所や自民党といった組織としての活動ではない、言わば岸田文雄自身の地方行脚ということになる。

組織の立場に縛られず、岸田文雄が政治家としての自由な立場で地方を訪問し、その土地に暮らしている人に、いま政治に何が求められているのかを率直に聞く、まさに岸田文雄が総裁選で訴えてきた「聞く力」を実践しているわけだ。



山梨県小菅村

11月2日に訪問した山梨県において、岸田文雄は小菅村・丹波山村・上野原市の3市村を訪問した。

特に小菅村と丹波山村は500〜700人弱の人口の小さな村であり、丹波山村は日本をブロック分けした中で最も人口が少ない村で作る「小さな村87サミット」の加入村でもある。

その小さな村を訪問し、岸田文雄はそこに暮らす人達と直接話したり、食事を共にしたり、また村がいま最も力を入れていることや村の良い面、そして不便な面など意見交換などを行った。

また11月8日には長崎県の五島列島を訪問。

佐世保から船で小値賀町に入り、漁港や民宿 農家、また1000年以



山梨県丹波山村

上の歴史を受け継ぐ活版印刷所などを訪れ、時に車座になり、時にビールケースに座り、時に畑作業を体験するなど、様々な人々と交流を深めた。

ここでも離島ならではの良ところ、そして不便なところ、政治に求められているものを、岸田文雄は地域の人たちから直接聞いた。

11月28日には佐賀県を訪問。

柿農家や名尾手漉和紙工房を見学したり、十数人単位で集まって頂いた方々と意見交換するなど、地域に密着し、現場の生の声が聞ける距離での活動を行った。

これらの活動を通じ、岸田文雄自身が節



長崎県小値賀町

らない地方そのままの姿を見ることができ、また岸田文雄に会った人たちも、生の岸田文雄を見ることができたのではないだろうか。

地方の声を政策に反映させるという政治の原点とも言える活動を岸田文雄はいま行っているのだ。

この他にも、地方で開催される講演会や会合、また地方選挙の応援など、様々な機会ですべて岸田文雄の地方後援会も活動を活発化している。

広島・東京の他に、沖縄・愛知・兵庫・福井・静岡・福岡・熊本と、全国9箇所の後援会を持っているが、各地域で集会や懇親会を行い、岸田文雄は多くの人たちに想いを訴え、支持を拡大させている。

そしてそれは、まだまだ広がっていく予定だというのだ。

今後岸田文雄の地方での活動の幅が広がっていくための、大きな力になることだろう。

菅総裁の任期は令和3年の9月までであり、長いようで短い。

また新型コロナウイルス対策をはじめ、経済や社会保障や教育の問題、そして大統領選が行われたアメリカをはじめとしてますます厳しくなっていく国際情勢の中における日本外交の問題など、いま政治に突き付けられている課題は山積している。

その中にある岸田文雄にかかる期待は大きい。

それだけに今後の約10ヶ月、岸田文雄が何を語り、どう行動するのか、その一挙手一投足に注目が集まっているのである。

文・翔編集



佐賀県の農家の皆さんと



五島列島から海を臨む